



Mariya Takeuchi  
Impressions

- 
1. けんかをやめて
  2. 明日の私
  3. ヤーソービートで明かして
  4. Forever Friends
  5. 恋の嵐
  6. シンガルのマダゴン  
アトラ、此
  7. マン・イン・ザン・キス
  8. 心気甲して
  9. 本気でオンリーユー (Let's Get Married)
  10. 告白
  11. 結婚ラブソング
  12. リンダ
  13. 家に帰ろう (ハイ・スイート・ホーム)
  14. 駅

AMCM-4200

ペンゴシムズ

竹内まりや

east west japan

1. 1/4かをやめて
2. 明日の私
3. マージービートで悩ませて
4. Forever Friends
5. 恋の嵐
6. シングル・アゲイン
7. もう一度
8. マンハッタン・キス
9. 勇気を出して
10. 本気でウェディング (Let's Get Married)
11. 告白
12. 純愛キブツデ
13. リンダ
14. 家に帰る (マイ・スマート・ホーム)
15. 駅





アーティストブック「インプレッションX」19

もうひとつの『インプレッションズ』

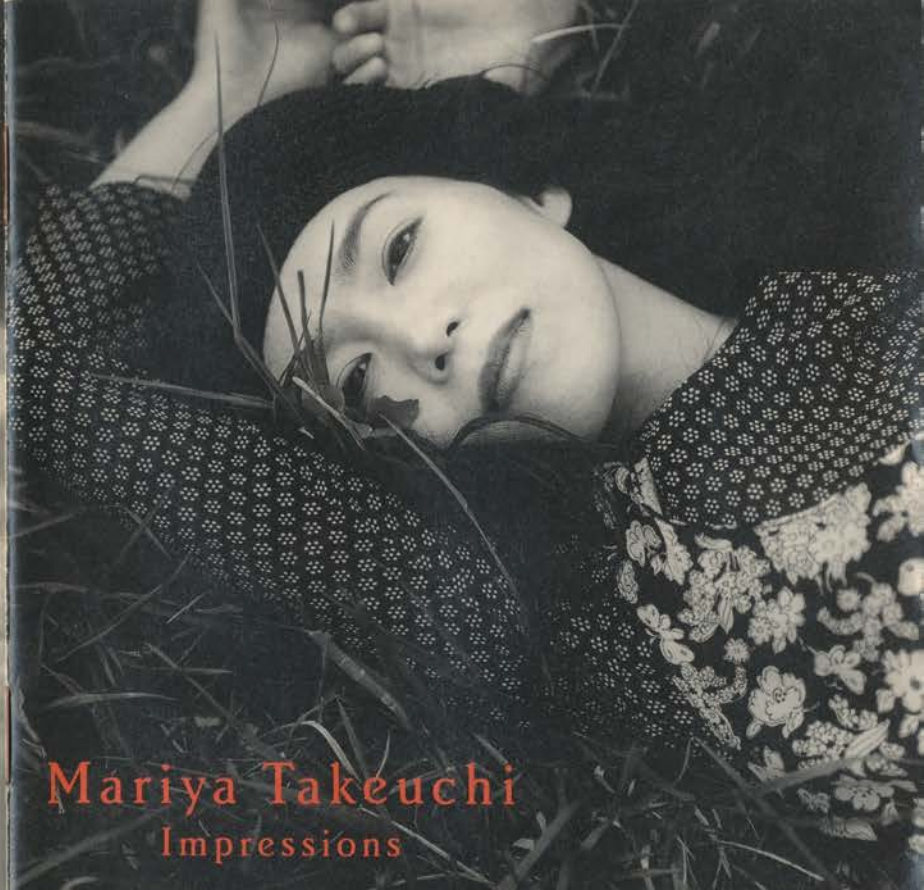
——竹内まりや究極のアーティスト・ブック

『インプレッションズ』今秋発売!

竹内まりやがその生いたちから結婚、出産、そして待望の  
ベスト・アルバム『インプレッションズ』まですべてを語りおろす!  
写真はアメリカ写真界の第一人者  
カート・マーカス撮りおろしのアーティスト・ブック版  
『インプレッションズ』は今秋発売です。

---

予価1700円(税込み)/A4変形判/全160頁/ロッキング・オン刊  
(問)03-3496-6731ロッキング・オン



Mariya Takeuchi  
Impressions

1. けいかをゆめて

2. 朝の光

3. マルチメディアで抱かれたい

4. *Butterfly* 羽の虫

5. 夢の翼

6. シンデレラアザミ

7. 夢一夜

8. タンハッパシ・キス

9. 叱咤を出して

10. 本気でオンリーユー (Let's Get Married)

11. 告白

12. 純愛ラブソング

13. サンダ

14. 家に帰ろうわいステート・カー

15. 駅





## ポップスの成熟と竹内まりや

日本のポップス界には、ぼくたちをワクワクさせてくれる女性シンガーが少なくないが、竹内まりやは、その中でも特異な存在だ。例えば、彼女の歌はラジオを通じて日常的にぼくたちの周囲に流れているけれど、ライブ活動は行わず、本人の姿がテレビや雑誌等のメディアに登場することはほとんどない。レコーディング活動に当たって、作品が溜まれば、その時点でレコード化していくというスタイルだから。アルバムが届けられ、新しい歌に接するまでに3、4年の間隔があくことも珍しくはない。実際、この10年間で彼女が発表したアルバムの数は、1984年の『ヴァラエティ』、1987年の『リクエスト』、1992年の『クワイエット・ライブ』の、僅か3枚にすぎない。今回は、その3枚からの選曲を中心に、『純愛ラブソディ』のような最新シングルを含めて構成されている。

これほど情報化が進み、情報の量によってその音楽への評価が左右されることさえある現代の音楽産業のシステムの中において、彼女はほとんどメディアに登場することなく、音楽活動を続けているのである。もちろん、限られた人々に向け、ジャン・コクトー言うところの「少数派であることを介して芸術という名の勝利を得る」ことに価値をみる人にとっては、そういった方法は珍しいことでもないかもしれない。だけど、彼女は、大衆娯楽としての音楽、つまり、ポップ・ミュージックにこだわり、その成果をあげている。既成

のシステムから逸脱していても、優れた音楽であれば広く支持されるということを彼女は実証してみせているのである。

「別に、意図してやっていることではないのよね。特に、ここ数年間は、家事や育児に追われて時間がなかったし、私にとってプロデューサーとして不可欠な達郎のスケジュールに左右されるから、彼が本人のレコーディングやライブのスケジュールがあいたときにしか出来ない。だから、自然とそうなっているだけなの」その辺の事情に関して本人は、いとも簡単に片付けてしまうけれど、実は、その自然なことが困難な時代だからこそ、竹内まりやというシンガーの存在が貴重なのだし、そしてまた、本人がすれば迷惑かもしれないけれど、彼女が開けた扉は、例えば、結婚し、出産してもなお歌い続けていくことを願う若い女性シンガーたちへの励みを含めて、ビートルズ以降の世代の成熟という視点から、日本のポップ・ミュージックという図式の中でとても大きな価値があると、ぼくは信じて疑わない。

そんなことを言うと、「そうかなあ」と、彼女は首を傾げるし、実際、日本のポップ・ミュージックにおける女性シンガーの未来を担うといったような気負いなど、この人にはまるでない。15年ほど前に初めて出逢った頃から変わらない大きな目をクリッとさせながら、大胆なことをサラリと言っているのける。そんな彼女を目の当たりにしていると、音楽に対してはもちろんだが、生きるという行為そのものに対して、この人は洗練さ

れた技術というか、独特のバランス感覚を身に着けているような気がする。それは、彼女が持って生まれた素質なのか、あるいはまた育ちの良さのせいなのかはわからないけれど、彼女の歌には、息苦しいところが一切ないのである。その歌声を前にすると、一瞬にして周囲が華やかになる。しかも、その歌声には有無を言わせぬ魅力があって、そこに並べられた言葉以上の物語を綴り、行間に潜む情感を拾いあげる。

妻であり、母親でありといった彼女の置かれた状況もそうだが、音楽性に関しても、彼女の歌に描きだされる世界にしても、必ずしもそこにはドラマティックな要素はない。主人公たちは、どちらかと言えば、ぼくたちの周囲を見まわせば何処にでもいる女性たちだ。だけど、そういった女性たちが、日々の生活を通じて胸の中に蓄積していく切実な声に耳を傾け、穏やかな生活に吹き込んでくる嵐を待っている人たちの、日常の語々の些事に潜む秘めやかなときめきを、彼女はその見事にすくいあげていく。しかも、そこに注がれる視線は、ひとりの女性としてのそれに終始していて、そうすることで、彼女は、平凡という名の素朴な重荷を抱えながら生きていく女性たちに敬意を払い、彼女たちの胸の奥底に潜む細やかなときめきたちに精一杯応えようとしているかのようにもみえる。

もちろん、彼女にだって苦い経験がなかった訳ではない。アイドルとしてメディアに頻りに姿をさらけだし、歌う楽曲ばかりか、ステージで着る衣装さえも自らの意志とは関係ないところで用意された時代――、

そういった意味では、1984年の『ヴァラエティ』は、重要なアルバムだ。山下達郎という屈指のプロデューサーとのチーム・ワークが初めて実践されたアルバムというだけでなく、彼女が、歌うべきことを最良の形で表現し得る活路を見出したアルバムでもあるからだ。

それでも、恐らく、彼女は過去の苦い思い出を否定してはいないはずだ。十代、二十代、三十代を通じて、それなりに苦しみがあり、喜びがあり、悩みがあり、楽しさがあったのだと。特に、三十代に関して充実した季節だったと語る彼女は、新たに待ち受ける現実を前にして、まだまだいろんな楽しみがありそうだと目を輝かせる。そこにぼくは、本人の意志にかかわらず、ポップ・ミュージックの、あるいはそれに関わる女性の成熟という未来に向けて、ますます彼女は多くを担っていくのではないかと楽しみでならない。

それにしても、「女性のかたから共感していただけるのはもちろん嬉しいけれど、高校生のような若い女の子たちが、部屋に写真を貼ってますなんて便りをくれたりすると、それもまた凄く嬉しいのよね」と、笑いながら話す彼女が、ぼくは好きである。歌う行為を表して、「生理的な欲求」だときっぱりと言い切る彼女が好きである。ロビー・ロバートソンを前にして目を潤ませる彼女が好きである。敬意に満ちた口調で、山下達郎の話をする彼女が好きである。そして、女性としての際どさに、危うさにこだわり続ける彼女が、ぼくは大好きである。



## げんかをやめて

Words & Music by Mariya Takeuchi

げんかをやめて 二人をとめて  
私のために争わないで もうこれ以上

ちがうタイプの人を  
好きになってしまふ  
揺れる乙女心 よくあるでしょう  
だけどどちらとも 少し距離を置いて  
うまくやってゆける 自信があったの  
ごめんさいね 私のせいよ  
二人の心 もてあそんで  
ちょっぴり 楽しんでたの  
思わせぶりの態度で だから  
げんかをやめて 二人をとめて  
私のために争わないで もうこれ以上

ボーイフレンドの数  
競う仲間達に  
自慢しなかったの ただそれだけなの  
いつか本当の愛 わかる日が来るまで  
そっとしておいてね 大人になるから  
ごめんさいね 私のせいよ  
二人の心 もてあそんで  
ちょっぴり 楽しんでたの  
思わせぶりの態度で だから  
げんかをやめて 二人をとめて  
私のために争わないで もうこれ以上

©1982 Tenderberry Music, Inc.

TATSURO YAMASHITA : Drums, Electric Guitar, Acoustic Guitar,  
Keyboards, Electric Strat. Vibe, Marimba, Glocken & Percussion,  
KOHKI ITOH : Electric Bass  
ETSUKO YAMAKAWA : Background Vocals  
MASATSUGU SHINOZAKI : Strings, Concert Master  
KATSUHISA HATTORI : Strings Arrangement

## 明日の私

Words & Music by Mariya Takeuchi

私を育てたこの町に  
新しい風が吹いたら  
思い出ごと箱に詰めて  
都へと旅立つの  
うしろ髪引かれる気持ちで  
みんなにさよならしただけ  
泣いてなんかいられないわ  
明日が待っているから  
自由気ままなひとり暮らし  
思ったほど楽じゃなくて  
置き去りにした古い恋も  
フェイドアウトで消えたの  
ビルの谷間歩きながら  
私覚悟決めただ  
夢をいつか叶えるまでは  
故郷には帰らない

たまらなく寂しい時には  
長電話とアロマセラピー  
いつのまにか孤独という名の  
友達が増えてる

ぬくぬくと守られてきた  
私も少しずつ変わり  
ストレスにも負けないほど  
たくましく身につけたの  
隣の芝生は青いけど  
抱えてる悩みは同じ  
他人の痛みがわかるような  
そんな大人になりたい  
未来だけを見つめながら  
私らしく生きてゆく  
キレイに心磨けばきっと  
運命は笑いかける

©1984 Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA: Drums, Drum Programming,  
Computer Programming, Electric Guitar, Acoustic Guitar,  
Keyboards, Percussion & Background Vocals  
KOHKI ITOH: Electric Bass  
MOTOYA HAMAGUCHI: Percussion

## マージービートで唄わせて

Words & Music by Mariya Takeuchi

\* 鈴なしスーツで キメてたあの頃  
毎晩女の子から キッスの贈り物  
届いてた リヴァプール

あなたがくれたのは だだの夢じゃなくて  
世界中を巻き込むほどの とびきりのセンセーション  
あなたが話してる 言葉もわからずに  
ひたすら追いかけた少女が  
ここにいる私なの

グラビアをめくるたびに その笑顔に会えたのに  
胸の中でだけ 時が止まってる  
幽日のブーツで 刺んだリズムは  
今なお少年達をしびれさせるマージービート  
届いてた リヴァプール

64年のレコード棚にある 心震わせたあのメロディ  
耳もとで鳴り出す  
あなたが消えてから 淋しくなったけど  
いつのまにか大人になって 涙も乾いてた  
グラビアをめくるたびに その笑顔に会えたのに  
胸の中でだけ 時が止まってる

\*repeat

届いてた リヴァプール  
唄わせてよ マージービート

©1984 Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA: Electric Guitar, Acoustic Guitar,  
12 String Electric Guitar, Percussion & Background Vocals  
YUTAKA UEHARA: Drums  
KOHKI ITOH: Electric Bass  
HIROYUKI NANBA: Electric Organ  
MARIYA TAKEUCHI: Electric Organ Solo  
MASAMICHI SUGI: Background Vocals  
GINJI ITOH: Background Vocals  
KAZUHITO MURATA: Background Vocals

## Forever Friends

Words & Music by Mariya Takeuchi

どんなに長く ごぶさたをしてても  
電話ひとつかけるだけ 学生に戻れる  
懐かしい場所で 待ち合わせをしたら





思いきりはしゃぎながら ドライブに出かけよう  
それぞれに抱えてる悩み 打ち明けなくて  
睡を見ればすぐにわかる 恋のゆくえぐらいは  
だって 彼よりもっと心許している  
そんな仲間 永遠の友達 いつまでも友達

気まぐれだけで 生きていた頃には  
同じ人好きになって 泣いた日もあるけど  
落ち込んだ時に 誰よりもやさしく  
助ましてくれるみんな 変わらないでそのまま  
仕事はまだ楽しいうちは 独り身の気軽さを  
守りとおす約束をして 夜明けまで語り合った  
だって 彼よりうんと興味つかまれてる  
女同士 永遠の友達 いつまでも友達 永遠の友達

張り合う気持ちもちよっぴりは 大切にしたいねと  
ウィンクできよならしたあと 別々の道を歩く  
だって 彼よりずっと古いつき合いなの  
そんな仲間 永遠の友達 いつまでも友達  
永遠の友達 いつまでも友達

©1992 Trendcherry Music, Inc. "A little help from my friends"  
Words & Music by J. Lennon & P. McCartney  
©1997 Northern Song Ltd.

IATSUBO YAMASHITA: Computer Programming,  
Electric Guitar, Acoustic Guitar, Keyboards, Glocken,  
Percussion, Harmonica & Background Vocals  
JUN AOYAMA: Drums  
HIROYUKI NANBA: Electric Piano

## 恋の嵐

Words & Music by Mariya Takeuchi

ふと触れた指先に  
心が揺れる夜は  
秘め続けた想いさえも  
隠せなくなる  
友達でいたいけど  
動き出したハートは  
もうこのまま止められない  
罪の始まり

\*Dance, Dance, Dance,  
頬を寄せて 強く抱いて  
ステップ踏むの  
Chance, Chance, Chance,  
まだ今なら 帰る場所を  
選べるわ

あなたの車に乗り  
駆け抜ける雨の街  
涙色に輝いてる  
切ないくらい  
二人を急かすように  
降り続く雨の音  
誰もいない駐車場で  
止めたエンジン

\*\* Rain, Rain, Rain,  
恋を打って もっと降って  
嵐を呼んで  
Pain, Pain, Pain,  
恋するほど ついてくるの  
哀しみも

\* repeat

\*\* repeat

胸の痛み 熱いキスで  
忘れない

©1986 NICHION, INC.

TATSURO YAMASHITA: Computer Programming, Electric  
Guitar, Glocken, Percussion & Background Vocals  
JUN AOYAMA: Drums  
YASUHARU NAKANISHI: Keyboards  
SHIGEO FUCHINO: Tenor Sax Solo

### シングル・アゲイン

Words & Music by Mariya Takeuchi

あなたを連れ去る  
あの女性の影に  
怯えて暮らした  
日々はもう遠い  
離れてしまえば  
薄れゆく記憶  
愛していたのかも  
思い出せないほどよ  
また独りに返ったと

風の便りに聞いてから  
忘れかけた思いが  
胸の中でざわめく  
私と同じ痛みを  
あなたも感じてるなら  
電話ぐらいくれてもいいのに

変わり続けてく  
街並のように  
もとには戻れない  
若き日のふたり  
彼女を選んだ  
理由さえ聞けずに  
ただ季節は流れ  
見失った約束  
もし再び出会って  
嫌を探り合っても  
隔てた時間を埋める  
すべは何ひとつない  
手放した恋を今  
あなたも悔やんでるなら  
やっ和本当のさよならできる

©1989 NTVM & Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA: Computer Programming,  
Electric Guitar, Keyboards, Glocken & Percussion  
JUN AOYAMA: Drums  
KOHKI ITOH: Electric Bass  
HIROYUKI NANBA: Keyboards  
INLIN PAN: Strings Concert Master  
KATSUHISA HATTORI: Strings Arrangement

### もう一度

Words & Music by Mariya Takeuchi

夜毎 つのる思いに  
胸を熱くした日々 ただ  
あなたのそばにいれば  
幸せだったのに  
重ねた時が いつしか 私を変えてた

同じ淋しさを今  
ふたり 分け合っているだけ  
すれ違いの愛で 失った言葉が  
もうすぐ きっと よみがえるから  
このまま 離れずに

傷つけ合うより 素直な心と 微笑み選んだの  
優しさ忘れて 暮らしていた事 初めて気づいたの

部屋を 出て行く勇氣  
とでも持てないけれど とも  
少しだけあなたを 心配させてみたい  
輝いていた頃の私に  
再び戻って

夜毎 つのる思いに  
胸を熱くした日々  
Let's try again

©1984 NICHION, INC.

TATSURO YAMASHITA: Electric Guitar, Acoustic Guitar,  
Keyboards, Glocken, Percussion & Background Vocals  
JUN AOYAMA: Drums  
KOHKI ITOH: Electric Bass  
HIROYUKI NANBA: Acoustic Piano

### マンハッタン・キス

Words & Music by Mariya Takeuchi

Don't disturb  
閉ざされた ドアの中だけが  
私になれる場所  
ここで あなたが見せる優しさに  
偽りはないけど  
どうして こんなに寂しい  
夜明けの足音 近づいてくると  
何もかもまるでなかったように シヤツを着る  
愛しい背中 眺めるの  
私より本当はもっと孤独な誰かが  
あなたの帰り 待ってるわ  
すれ違う心の奥見透かしながら

ひとり残された部屋の窓の外  
手を振る気もなくて  
霞む摩天楼の彼方 天使が涙で覗き込む  
どうして 愛してるだけじゃ満たされなくなる  
愛されるまでは  
長過ぎる一日をもてあまし 彷徨えば  
哀しいくらい 自由なの  
街の灯が夕闇に点り始める頃に



あなたもきっと 感じてる  
ほろ苦い昨夜のキスのその余韻を

どうして あなたじゃなきゃ駄目  
声かける人は たくさんいるのに  
できるなら 知り合う前の私に戻って  
置いてきた夢 探したい

いつの日か 遠い思い出と笑い合える  
そんな時がくるのかしら

明日さえ 手探りで生きるふたりにも

Till I hear you say you love me Don't disturb.

©1992 Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA: Computer Programming, Electric Guitar,  
Acoustic Guitar, Keyboards, Electric Sitar,  
Glocken, Percussion & Background Vocals  
EIJI SHIMAMURA: Drums  
MASATO HONDA: Tenor Sax Solo

## 元気を出して

Words & Music by Mariya Takeuchi

涙など見せない 強気なあなたを  
そんなに恋しました人は誰なの?  
終りを告げた恋に すがるのはやめにして  
ふりだしから また始めればいい  
幸せになりたい気持ちがあるなら  
明日を見つけることは とても簡単

少しやせたそのからだに似合う服を探して  
街へ飛び出せばほら みんな振り返る  
チャンスは何度でも 訪れてくれるはず

彼だけが 男じゃないことに気付いて

あなたの小さなmistake いつか思い出に変わる  
大人への階段をひとつ上ったの  
人生はあなたが思うほど悪くない  
早く元気出して あの笑顔を見せて

©1984 Tenderberry Music, Inc.

TATSURO YAMASHITA: Acoustic Guitar,  
Hammond Organ, Percussion & Background Vocals  
JUN AOYAMA: Drums  
KOHKI ITOH: Electric Bass  
HIROSHI SATOH: Acoustic Piano  
MOTOYA HAMAGUCHI: Percussion  
HIROKO YAKUSHIMARU: Background Vocals

## 本気でオンリーユー (Let's Get Married)

Words & Music by Mariya Takeuchi

Now let's get married  
No need to wait and waste our time  
Why do we have to carry on this way?  
No one can keep us apart  
So, let's get married right away  
I'll wake you up in the morning, my baby  
Sweeten your coffee with my kiss  
And in the night I will hold you so tightly  
Whisperin' the words you long to hear  
So, let's get married  
Why don't you ask me and stop hesitating?  
Just think how happy we can be  
You & me in a small house with a dog



So, let's get married right away  
When you are blue and so down, my baby  
I'll give a smile to cheer you up  
But if I get sad and lonely  
Please hug me close and wipe my tears  
So, let's get married  
I just don't know how to live without you  
Maybe it's nice to have our kids some day  
And this is all I can say  
Now let's get married right away  
So, let's get married right away

©1984 Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA :Drums, Electric Guitar,  
Acoustic Guitar, Keyboards, Electric Sitar, Marimba, Vibes,  
Glocken, Percussion, "Bow Work" & Background Vocals  
RYUICHI SAKAMOTO :Synthesized Pipe Organ  
KOHKI ITOH :Electric Bass  
JO KATOH :Strings Conducter/Mixer  
ERNIE WATTS :Tenor Sax Solo

## 告白

Words & Music by Mariya Takeuchi

Why? 寝つかぬ夜 鳴り響く電話のベル  
Sigh... 虚ろな耳に 懐かしいあなたの声  
Ah. とまどう心で 上手な返事を探せば  
長い月日飛び越えて ときめくよ  
違う道を選んだあなたに  
今ごろ愛打ち明けられても  
ひき返せないと知ってるから  
この暮らし嫌さないで

Why? 強いあなたが 寂しさに負けるなんて  
Lie! 人恋しさは 一年をとったしるしてよ  
Ah. 無邪気になれない 出会った昔のように  
受話器置いて 切なさに泣き崩れた  
女心はいつも言葉と  
裏はらな企み隠してる  
どんなに遅すぎても告白  
待ちわびて生きているの

Ah. 失ったあとで 真実に気付くのは何故  
それでもまた朝は来る 知らぬ顔で  
もしもワインの酔いが醒めても  
本気で好きとつぶやいたこと

心の片隅に覚えてて  
密やかな恋の証

©1990 NTVM & Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA :Drum Programming, Computer Programming,  
Electric Guitar, Keyboards, Glocken,  
Percussion, Effects & Background Vocals  
HIDEFUMI TOKI :Soprano Sax Solo

## 純愛ラブソング

Words & Music by Mariya Takeuchi

明るいだけが取り柄でも  
私だって命がけの恋に憧れることがある  
ドラマティックな出来事は  
起こるはずもないくらいに平凡を生きてきた  
あなたとの出逢いの日を境にして  
すべてが輝き始めて 想いは募るばかり

愛し方何ひとつ知らないままで  
飛び込んだぬくもりは他の誰かのものだけど  
タイムカードを押すたびに  
ふと感じる物足りなさ いつしか消えてたの  
恋の舞台上上がっても  
脇役しかもらえなくて セリフはいつでもひとり言  
見えぬ顔につながれた  
あなたの心奪うのは ルール違反でしょうか  
遅すぎためぐり逢いを 悔やみながら  
過去にやきもち焼いたって  
戻せない時までは  
片づいてゆく仲間達に ため息  
どこまでも 主役にはなれない私  
でもいいの  
人をこんなに好きになり  
嬉しいと強さ知ったわ それだけで幸せ

形では愛の深さは測れない  
さよならが永遠の絆に変わることもある  
二度と会えないふたりでも  
胸の中で生き続ける 大好きな微笑み  
So, I sing this thapsody for you

©1994 NTVM & Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA :Drum Programming,  
Computer Programming, Electric Guitar, Keyboards,  
Glocken, Percussion & Background Vocals  
HIRYUKI NANBA :Electric Organ  
MARIYA TAKEUCHI :Background Vocals

## リンダ

Words & Music by Mariya Takeuchi

Who's that girl in love?  
Who's that girl in love?

Hey LINDA  
泣いてばかりの 恋はもう終わったの  
さあ LINDA  
涙をふいて その瞳あけてごらん  
いちばん好きな あの人  
あなたのもの いつまでも  
子供の頃に夢見た 幸せをつかまえたのね  
ねえ LINDA  
今日のあなたは 誰よりも輝いてる  
でも LINDA  
約束してね その笑顔忘れないと

Hey LINDA  
The lonely days are through  
No more sorrows and teardrops on your face  
Hey LINDA  
So smile and look at yourself  
You're the prettiest the happiest in this world  
He came to you just to love you  
Hold you and kiss you  
Don't ever be afraid anymore  
He can be strong when you're weak





Right when you're wrong  
And will guide you where to go taking your hand  
Hey LINDA  
The sunshine of your eyes  
Makes you brighter than any other girl  
But LINDA  
Before you walk away just remember  
I'll always be your friend

(You're the girl in love)

©1980 Watanabe Music Publishing Co., Ltd.  
TATSURO YAMASHITA Electric Guitar, Keyboards,  
Vibe, Percussion & Background Vocals  
AKIHIKO NOGUCHI Drums  
KOHKI ITOH Electric Bass

家まに帰ろう(マイ・スイート・ホーム)

Words & Music by Mariya Takeuchi

恋するには遅すぎると 言われる私でも  
遠いあの日に 迷い込みたい気分になるのは  
キスすることもなくなった 初恋のあなたが  
嫌いになったわけじゃないけど 素直になれないの  
冷蔵庫の中で 凍りかけた愛を  
温めなおしたいのに  
見る夢が違ふ 着る服が違ふ  
いちどは信じ合えたふたりなら  
心癒る場所はひとつ  
いつもの My sweet sweet home

幻だけの恋ならば 100回でもできる  
それならふたりここで暮らそう 100才になるまで  
居心地の良さに 決して甘えないで  
やさしさも忘れないで  
好きな歌違ふ 選ぶ絵も違ふ  
でもいちばん私を知っている  
見飽きたはずのあなたでも  
いとしい My sweet sweet home

©1982 NICHION, INC. & Smile Publishers Inc.

TATSURO YAMASHITA Electric Guitar,  
Acoustic Guitar, 12 String Electric Guitar, Glocken,  
Percussion & Background Vocals  
JUN AOYAMA Drums  
KOHKI ITOH Electric Bass  
HIROYUKI NANBA Acoustic Piano  
MOTOYA HAMAGUCHI Percussion  
KAZUHIKO MURATA Background Vocals

駅

Words & Music by Mariya Takeuchi

見覚えのある レインコート  
黄昏の駅で 胸が震えた  
はやい足どり まざれもなく  
昔愛してた あの人のぬ  
懐かしさの一步手前で  
こみあげる 苦い思い出に  
言葉がとても見つからないわ  
あなたがいなくても こうして  
元気で暮していることを  
さり気なく 告げなかったのに……

二年の時が 変えたものは  
彼のまなざしと 私のこの髪  
それぞれに待つ人のもとへ  
戻ってゆくね 気づきもせずに  
ひとつ隣の車両に乗り  
うつむく横顔 見ていたら  
思わず涙 あふれてきそう  
今になってあなたの気持ち  
初めてわかるの 痛いほど  
私だけ 受してたことも

ラッシュの人波にのまれて  
消えてゆく 後み姿が  
やけに哀しく 心に残る  
改札口を出る頃には  
雨もやみかけた この街に  
ありふれた夜がやって来る

©1986 M.C. Cabin

TATSURO YAMASHITA: Computer Programming,  
Electric Guitar, Keyboards & Percussion  
JUN AOYAMA: Drums  
KOHKI ITOH: Electric Bass  
MOTOYA HAMAGUCHI: Percussion  
MASATSUGU SHINOZAKI: Strings Concert Master  
KATSUHISA HATTORI: Strings Arrangement

HIROYUKI NANBA by the courtesy of RVC/Aix Records  
MASAMICHI SUGI by the courtesy of Sony Records  
GINJI ITOH by the courtesy of POLYSTAR CO., LTD.  
MASATO HONDA by the courtesy of Sony Records  
HIROSHI SATOH by the courtesy of ALEX RECORDS, INC.  
HIROKO YAKUSHIMARI by courtesy of TOSHIBA-EMI LTD.  
HIDEFUMI TOKI by the courtesy of FUN HOUSE, INC.



IMPRESSIONS/MARIYA TAKEUCHI

Produced by TATSURO YAMASHITA for Tenderberry Music Inc.  
All Songs Composed by MARIYA TAKEUCHI

Executive Producer: RYUZO "Junior" KOSUGI

All Tracks Arranged by TATSURO YAMASHITA  
except Strings Arrangement on "Keraka", "Eki"  
& "Single Again" by KATSUHISA HAYTORI

Recording Engineers: YASUO SATOH, TAMOTSU YOSHIDA,  
TOSHIRO ITOH & TATSUYA NAKAMURA  
Mixed by YASUO SATOH

Recording Studios: Smile Garage, Sony Roppongi, Onkio Haus  
A & M Studio (L.A.)

Digital Mastering Engineer: MITSU HARU HARADA  
Mastering Studio: On Air Akiba Studio

Artist Management: NORIMASA UCHIDA (of Smile Company)  
Managing Crew: SHIN KATAYAMA, SHUICHI KOBAYASHI  
& MASANORI FUKUISHI  
A & B: SUSUMU KOIZUMI

Photography: KURT MARKUS

Assistant: ANDY GEIGER

Creative Director: YOICHI SHIBUYA (rockin'on inc.)

Art Direction & Design: HIDEKI NAKAJIMA (rockin'on inc.)

Design: MASASHI NAKAYAMA (rockin'on inc.)

Stylist: NOBUKO SAITOH

Hair & Make up: MICHIKO FUJIWARA & TOSHIKO YANO

Coordinator: MAKOTO SAITOH (rockin'on inc.)

Very Special Thanks to:

RYUZO "JUNIOR" KOSUGI, All the staff at east west japan, Smile Company  
& Smile Garage, YASUO SATOH, YOSHIKO TAKEUCHI

Ultra Special Thanks to:

KURT MARKUS (You're a genius!) & ANDY GEIGER

Also Many Thanks to:

YOICHI SHIBUYA & rockin'on inc., YASUFUMI AMATASEU

Lots of Love to:

TATSUKO & EBI



(1984年の移籍以来今日まで、竹内まりやのソロ作品をリリースして来たレコード会社の名称が、アルファ・ムーン→MMG→イーストウエスト・ジャパンと、再三変わっているため、混乱を避ける意味で、本文中では全て「ムーン・レーベル」という呼称で統一した。) 本アルバムは、これまでムーン・レーベルから発売された3枚のアルバムの中からセレクトされた作品に「リンド」を加えて構成された、いわゆるベスト・アルバムである。

輝石じの通り、竹内まりやは78年にRVC(現BMG)よりデビュー、5枚のアルバムを発表の後、'81年に休業。'84年に復帰してアルファ・ムーン(現イーストウエスト・ジャパン)に移籍、現在までに3枚のアルバムを製作している。

RVC時代に作られた竹内まりやの5枚のアルバムと、ムーン・レーベルに移籍してからの3枚との決定的な相違は、何と云っても「竹内まりや自身による全曲作詞作曲」という点に尽きる。RVC時代の竹内まりやが基本的には「歌手」であったのに対して、現在の竹内まりやは、古い言い回しが「シンガー・ソング・ライター」という事になる。

こんな事は今だから言えるのだが、私は勿論、周りのスタッフも、古くから彼女を知る関係者ですら、竹内まりやが作詞と作曲に関してこれ程の才能を有していたとは、'84年当時には誰一人として気付いてはいなかった。

ムーンに移籍して、そろそろ「復帰」アルバムの制作を開始しようかというある日、「2年間の休業中に書きためた曲を聞いて欲しい」と彼女が持ってきた、弾き語りのデモ・テープ・カセットの内容にブツまげ、即座にそれまで考えていたアルバムの制作方針(従来通り外部の作家に作品を発注する)を変更し、全曲彼女の詞曲で行こうと決めたのが、そもそもの転換点だった。

とはいえ、当時の音楽状況や、彼女に対するパブリック・イメージに照らし合わせると、それは相当リスクの大きい決断だったのも確かである。

何しろ、その時代の彼女は、世間一般ではあくまで「歌手」としてとらえられており、アイドル等にいくつが作品を提供してはいても、「作詞・作曲家」あるいは「シンガー・ソング・ライター」としては全く認知されていなかった。

ミュージシャンの出自やデビューの仕方といった、「はじめの一步」が妙な具合に重んじられ、後々までついて回る日本の音楽界では、キャリア半ばで音楽的スタンスを変更するのは容易ではない。作品の質は申し分なかったが、歌手としてのイメージが強いまりやが、全曲作詞作曲のアルバムなどと気張ってみたところで、果たしてどれ程の評価を得られるだろうかという危惧は、スタッフの間にも大きかった。

ところが、発表されたアルバム「ヴァラエティ」は、それまでの彼女のどのアルバムよりも大きな反響を呼

び起こした。売り上げも我々の予想をはるかに上回り、この時点で竹内まりやは晴れて作家としての能力を公に認められる事になったのである。

あれから10年、今はもう竹内まりやをシンガーとしての側面のみから捉える人は誰もいない。運にも恵まれたが、全ては彼女自身が切り開いた事である。

少々話が長くなってしまった。それでは各作品について、本人への取材を元に、プロデュース・アレンジを担当した私の私見などを織り混ぜながら。

## けんかをやめて

メアリー・マクレーガーのヒット・ソング「TORN BETWEEN TWO LOVERS」の、タイトルのニュアンスに啓発されて作ったものだという。これを、ちよちよ折り返し長く依頼が来た河合奈保子のシングルのために提供して、こちらもヒット・ソングとなった。'82年の事である。この作品はまりやの脚気に入りて、自分自身でも歌ってみたいという事になり、'87年のアルバム「リクエスト」に収録された。こうした内容のティーンエイジ・ソングは、ありそうで実は意外と見当たらないパターンだも私は思っているのだが、本人にそうした自意識は全くないようだ。

## 明日の私

'94年3月発売のシングル。「地方出身者の上京」という、まりや自身の実体験とオーバーラップしているテーマだけに、ひととき実感のこもった内容の歌だ。

逆に全く実感の湧かない東京モンの私としては、明るさの中にどこか一片のノスタルジアが必要のように思えたので、少々オールド・タイムなアレンジを施した。

## マージービートで唄わせて

'84年のアルバム「ヴァラエティ」収録。彼女の少女時代のアイドルである、ビートルズへ向けての讃歌、真夜中に突然歌い出しのフレーズが湧いて来たという。こうしたタイプの曲の場合、適度なシャレレがあった方が面白いので、'60年代当時のマージー・ビートのレコードの音律に近い、一発録りのライブな雰囲気を出しつつ、楽器の定位なども'60年代風にしてある。ビートルズというよりはビリー・ジ・クレイマーあたりに近い?コーラスも杉真理・伊藤銀次・村田和人と、いざれ男らぬマージー・ビート・ファン。気持ちの通ったハーモニーだ。聞奏をどうしても自分でやりたいと、まりや自身がオルガン・ソロを弾いている。

## Forever Friends

'92年のアルバム「クワイエット・ライア」収録。'90年代に入るあたりから、まりやの書く歌の世界は、友人や夫婦といった身近な題材が増えて来たが、この曲も「女性同士の友情」がテーマの、男の私からすれば非常に興味深い作品である。最後にビートルズの「WITH A LITTLE HELP FROM MY FRIENDS」が登場するのは、曲想に合わせて私が思い付いたちよちよとしたオアソビで、本人脚気に入りのアレンジ。

## 恋の嵐

'86年4月～6月放映のTBS系ドラマ「隣の女」の主題歌としてシングル・カット。もともと締め切りがタイトだった所に、打ち合わせてトラブルがあったりして、実質5日間でレコーディングを完了せねばならず、ヒーヒー言いながらアレンジした覚えがある。不倫と雨が題材の作品だが、ジメジメした感じにならないように、男性コーラスを低めに柔らかく配したのが功を奏して、自分でも満足行くアレンジに仕上がった。最後の用のSEは、なかなかいい素材がなくて、結局私の「スプリングラウ」という作品に使用したのと同じものを使い回している。「リクエスト」収録。

## シングル・アゲイン

'89年度日本テレビ系「火曜サスペンス劇場」のテーマ。離婚して再び独身に戻った状態を表す「シングル・アゲイン」というタイトルは、アメリカ生まれの流行語から取られたもの。換述する「駅」の場合とは逆に、この曲は私にとってかなり「歌謡曲的」に感じられ、アレンジに相当苦心した記憶がある。その甲斐あってか(?)、この作品は竹内まりやの現時点での最大ヒット曲となっている。有線でも年間最多リクエストを記録した。この時代の私のアレンジによく登場した、コンピューターが演奏するキーボード+人間の3リズム(ドラム、ベース、ギター)という編成によるレコーディング(「駅」などもこのパターン)。「クワイエット・ライフ」収録。

## もう一度

1984年4月～6月にかけて放映されたTBS系ドラマ「くれない嵐の反乱」の主題歌としてシングル・カットされたこの作品が、ムーン・レーベル移籍第1弾となった。休業明けの復帰後第一作でもあり、「もう一度歌を歌いたい」という思いも込めてこのタイトルにしたという。フォア・シーズンズやハブニングスといった、'60年代アメリカのイースト・コースト、白人ヴォーカル・グループのサウンドに乗せて、女性シンガーがリードをとるというアイデアは、私の中に以前からあって、それを彼女に話したところ興味を示し、書き上げて来た作品。見事に狙い通りのものが出来上がりうれしかった。歌詞の面でも、中年女性の感じる夫との精神的ギャップというテーマを、こうしたスタイルのサウンドで表現したのは、恐らく日本では初めての事ではなかったかと思う。「ヴァラエティ」収録。

## マンハッタン・キス

'92年に同名映画の主題歌としてシングル・カットされた。本人曰く「正統派のポップス・バラード」の事だが、いわゆる「産業ロック」にならないよう、アレンジは結構ヒネってある。レコーディング・スケジュールが私自身のライフと重なってしまい、ミックス・ダウンを含めて締め切りまでにたったの4日という、超ハードなスタジオ・ワークだったが、割と気に入っているオケのひとつである。典型的な不倫ソングだが、本人自身はあくまでアンチ不倫派であるとの事。ホッ。「クワイエット・ライフ」収録。

## 元気を出して

'84年に薬師丸ひろ子に書き下ろした作品を、アルバム「リクエスト」でセルフ・カバー。この曲はシングルだが秀逸な内容と形式を持った作品だ。カーリー・サイモンがジェイムス・テラーとの離婚の直後に発表したアルバム「トーチ」を聞いて、カーリー・サイモンを助ましくなり作ったのだという。ケナゲも動機。ドラム青山純、ベース伊藤広規、ピアノ佐藤博、そして私の生ギターとオルガンという編成だが、各自の情感が程よくミックスされた、自分で言うのもナンだが、会心の演奏だ。特に、佐藤博君のピアノのアイデアの素晴らしいには敬服する。コードでは、まりやを真ん中に薬師丸ひろ子女史と私が左右に別れてラララ・コーラスという、こんな事は竹内まりやのアルバムならでは。

## 本気でオンリー・ユー(Let's Get Married)

「もう一度」とカップリングでシングル化された、まりや得意のハチロク(8分の6拍子)もの。「LET'S GET MARRIED」という英語のタイトルがあるのに、わざわざ邦題を付けたのは、タイ・アップ上の理由による。彼女自身の結婚に由来した心吐露である事は明白だが、生活から生まれ出る情感を即座に歌にしてみえるのは、女性の作家ならではの事だろう。結婚がテーマの歌を日本語で歌うとクサクになるから、という「照れ」から、英語で作詞された。彼女のたつての要望により、イントロで坂本龍一氏に「結婚行進曲」を演奏し

てもらった(サンプリングのバイブ・オルガン)。「ヴァラエティ」収録。

## 告白

「シングル・アゲイン」に続く、'90年度の「火曜サスペンス劇場」のテーマ・ソングとしてシングル・カットされた。「未練心」がテーマの曲、と書くと、まるで演歌のようなだが、'86年に中森明菜に書いた「約束」という作品(ちなみにこの曲は、「純愛ラブソディ」のカップリング曲としてセルフ・カバーされている)と対になる内容を目論んで作ったという。「約束」は女から男への未練、この「告白」は男から女への未練を歌ったもの、というわけである。SE大好き山下達郎としては、是非ともイントロで電話のベルを鳴らしたいと思い、70年代のソウル・バラードにありそうなパターンで作り込んだまではよかったが、家でCDがかかるたびに本物の電話と間違えてしまい、困った。「クワイエット・ライフ」収録。

## 純愛ラブソディ

本アルバム発売時点での最新シングル。'94年4月～6月放映の日本テレビ系ドラマ「出逢った頃の君でいて」主題歌。ドラマの原作に沿った形での、ある種「ポジティブ」な不倫の歌であるという事が、彼女のそれまでの「恋の嵐」や「マンハッタン・キス」などとの違いだという。

## リンダ

この曲のみムーン・レーベルのアルバムにもシングルにも収録されていない。もともとは1980年、アン・ルイスが結婚する際にまりやがプレゼントした曲で、アン・ルイスはこの曲をシングルとして発表した。タイトルの「リンダ」はアン・ミドル・ネームである。まりや自身もこの曲を'81年のアルバム「ポートレート」でレコーディングしている(この時のアレンジは私)。今回ここに収めたものは、ムーン時代になってからカラオケ用に制作した再録ヴァージョンで、「ポートレート」時のものと同アレンジ、同ミュージシャン。エンジニアも同じ。要するに「完コピ」。従ってテイストは全く変わらないので御安心を。

## 家に帰ろう(マイ・スイート・ホーム)

'92年10月～12月放映のTBS系ドラマ「木曜日の食卓」の主題歌。バンド・サウンドで行きたくないという本人の希望により、このようなアレンジとなった。また、イントロは12弦のエレキ・ギターで始めて欲しいと言うので、パーズだのレフト・パンクだのと色々引っ張り出してみたが、あまり参考にならず、結局は自分で勝手にひねり出したフレーズで落着した。中年主婦の、ごくありふれた日常生活についての独白という、近ごろの音楽マーケットのトレンドからすれば前代未聞の詞のテーマを、このメロディーで、このアレンジで、しかもシングル・カットまでするというのは、実はとても価値あるチャレンジなのではないかと、私には思えるのだが、「クワイエット・ライフ」収録。

## 駅

'87年のアルバム「リクエスト」のコンセプトのひとつに、「他人に書いた作品を自分で歌う」というのがあり、「けんかをやめて」「元気を出して」などと同じく、この作品も、もともとは、ある有名アイドル・シンガーのために書かれたものである。まりやは当初、この曲を自分で歌う事に難色を示していた。マイナー・メロの「歌謡曲的」なアプローチだからというのがその理由だったが、歌謡曲とそれ程縁のない(?)私の耳には、この曲はどちらがといえばイタリヤ風聞こえたし、また、そのアイドル・シンガーがこの曲に対して示した解釈のひどさに、かなり憤慨していた事もある。是非とも自分の手でアレンジしてみたいという誘惑にかられ、彼女を説得してレコーディングまでこぎつけた。その後このヴァージョンは有線放送で1位になるなど、今では竹内まりやの代表作のひとつとなっている。メデタシ、メデタシ。

山下達郎(1994年5月10日記)



## Letter Address

スマイル カンパニー:〒106 東京都港区六本木3-16-15  
第23純漢ビル4F TEL.03-3588-1611

イーストウエスト・ジャパン:〒107 東京都港区北青山  
3-1-2 TEL.03-5412-3539

## ALBUM DISCOGRAPHY

Date	Title	Number
1984. 4.25	VARIETY	AMCM-4146
	もう一度/プラスティック・ラブ/本気でオンリーユー(Let's Get Married) One Night Stand/Broken Heart/アンフィシアターの夜 とどかぬ思い/マージービートで唄わせて/水とあなたと太陽と ふたりはステディ/シェットランドに頬をうずめて	
1987. 8.12	REQUEST	AMCM-4147
	恋の嵐/OH NO, OH YES!/けんかをやめて/消息/元気を出して 駅/チコのテーマ/色・ホワイトブレンド/夢の続き/時空の旅人	
1992.10.22	QUIET LIFE	AMCM-4141
	家に帰ろう(マイ・スイート・ホーム)/マンハッタン・キス/Forever Friends COOL DOWN/After Years/THE CHRISTMAS SONG 告白/コンビニ・ラヴァー/ロンサム・シーズン/幸せの探し方 シングル・アゲイン/Quiet Life	